

# 特別講義を聴講して

## その1

日 時：平成29年7月7日(金) 10:40~12:30

場 所：図書室

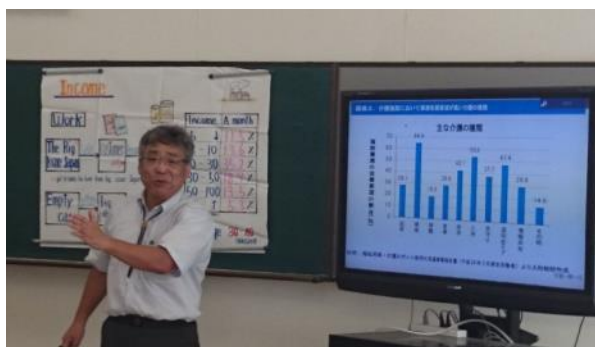
対象生徒：2年1組 38名

タイトル：「ディベート発想の思考力の育成」

講 師：中井 弘一 教授(京都橘大学)



私たちが行ったディベートのビデオを見ていただいて、大変具体的で的確な改善点についてお話していただきました。立論の立て方、エビデンスの提示の仕方など、これから先のディベートの授業で即活かすことのできるアドバイスばかりで、本当に内容の濃い講義でした。改めてディベートとはジャッジを説得する討論ゲームであるということが理解できました。本日教えていただいたことを実際のディベートでぜひ役立てようと思っています。



## その2

日 時 平成29年7月13日(木) 10:40  
~12:30

場 所 本校 図書室

対象生徒 1年1組 40名

タイトル 「ガーナの窓から  
~ガーナが教えてくれたこと~」

講 師 岸本 嘉奈子

(2009~2011年 青年海外協力隊 ガーナ共和国派遣)



ガーナでの2年間の体験をお話していただき、ガーナの人々の生活、文化、宗教、そして現地での活動の様子などを具体的に紹介していただきました。初めて知る事ばかりで、あっという間の2時間でした。



感想の抜粋を掲載しています。

〈感想〉☆場所や気候、文化や考え方も全く違う、異国の地で、新しい考え方や授業の方針を受け入れてもらうのはとても難しいことだったと思います。でもあきらめずにチャレンジし続けることや、相手の立場に立って考えることで現地の方々との意を通じ合い、受け入れてもらえるということが分かりました。この2点を

今後の生活の中でも活かしていきたいと思いました。

☆僕も以前から青年海外協力隊や、発展途上国を支援する組織や機関に興味を持っていたので、実際にそういう経験をなさった方からお話を聞くことができうれしかったです。想像以上に現地の生活は厳しそうでしたが、それ相応の貴重な経験が得られるのだと知ることができました。

☆青年海外協力隊に興味があったので、今回お話を聞くことができとても良かった。

「現地の外国人の目線で物事を見聞きする」ということが特に印象的で、日本での当たり前が他の国ではあり得ないこともあるというのが本当におもしろいと思った。これからもっと英語を頑張って、いつか国や人種など関係なしにいろんな人を助けることのできる人間になりたい。



☆私はこの講演をずっと楽しみにしていました。私は将来海外で働くボランティア活動に参加したいと思って、このグローバル・コミュニケーション・コースに入りました。この講演を聴いて現地で過ごすならば、現地の人になりきることが大切だとわかりました。現地語を話したり、現地の風習に従ったり…。でもその中で日本人や日本の良さを伝えることができたのはすごいと思いました。

☆岸本先生、僕たちに新しい世界の見方を教えて下さり、ありがとうございました。食べ物でもなんでもすぐに食わず嫌いにならずに、何でもチャレンジしてみることの大切さがよくわかりました。お話の中で僕はバケツ風呂が一番印象に残っています。また家でチャレンジしてみようと思いました。

☆ガーナで教師として働いた感想や学んだこと、文化などを岸本先生から聴いて、青年海外協力隊にとっても興味がわきました。私はガーナはカカオ豆ぐらいしか分からなかったけど、少しでも海外について知ることができてうれしかったです。ガーナの子どもたちの笑顔あふれる写真を見て、私も笑顔になれました。私も何か人の役に立つことをしてみたいと思いました。